

3 吾妻地域 ～ あがつまの農業・農村の可能性を飛躍させるために ～

＜＜地域の概要＞＞

- 吾妻地域は群馬県の北西部に位置し、畑を中心とした耕地が標高 300 ～ 1,400m の間に分布し、野菜と畜産が農業産出額の 8 割を占めています。
- 吾妻東部地域の中之条町、高山村、東吾妻町では、こんにゃくいも生産を基幹とした複合経営が主体であり、吾妻西部地域の長野原町や嬭恋村では、キャベツ・レタス等の高原野菜栽培や酪農が大規模に営まれています。
- 吾妻東部地域では農家戸数や就業人口の減少・高齢化が進んでいます。また、吾妻地域の野生鳥獣による農作物被害は、県内被害額の約 7 割（H26）を占め、今後も一層の対策が必要となっています。

＜＜現状と課題＞＞

水

- 農村地域の人口減少や高齢化の進行により、農業水利施設の維持管理が地域の負担となっています。
- 吾妻西部地域では昭和 40 年代から 50 年代にかけて整備された営農用水施設が、経年変化により劣化しているため、営農用水の安定供給に向けた対策が求められています。

土

- 吾妻西部地域では、すでに大規模経営による野菜生産等が行われていますが、更なる効率化に向けた基盤整備が求められています。
- 吾妻地域の野生鳥獣による農作物被害は、県内被害額の約 7 割を占めるなど、農業者の営農意欲減退につながる懸念されています。
- 基幹的な農道は建設から数十年が経過し、路面の劣化が進行するなど、農産物輸送の経路確保が懸念されます。

里

- 地すべり被害を最小限にするための対策が必要となっています。
- 農業集落排水施設の長寿命化等によるライフサイクルコストの低減が求められています。

協働

- 農村地域の人口減少や高齢化の進行により、地域コミュニティ機能の低下が懸念されます。
- 農業農村の持つ多面的機能について、理解促進に向けた取り組みが必要です。

【目指す方向】

『水』の保全整備

- ⇒ 農業水利施設の適時適切な保全対策により、施設の維持管理費を低減するなど地域農業を維持保全します。
- ⇒ 営農用水を確保することにより、高原野菜の品質や高い生産性を維持します。
- ⇒ 農業用水を活用した小水力発電施設整備を支援し、農業用水の維持管理費の低減に向けて、再生可能エネルギーの導入を推進します。

◆農業水利施設の保全管理

- ライフサイクルコストを低減するため、適時・適切な保全対策を進めます。
- 施設管理者による施設の点検診断結果について、機能保全計画の精度向上に向けた情報収集を行います。

◆高原野菜の営農用水の確保

- 吾妻西部地域の高原野菜地帯において、防除用水等を安定的に確保するため、経年変化により劣化した施設について、更新等の対策を行います。



吾妻西部地域の高原野菜地帯 (婦恋村)

◆再生可能エネルギーの導入促進

- 花の駅美野原等の農村振興施設の維持管理にかかる費用低減を図るため、農業用水を活用した小水力発電施設の導入を支援します。

◆土地改良区の運営体制強化推進

- 土地改良区が運営体制の強化を図るため、土地改良区体制強化基本計画を自ら策定し、基本計画を踏まえた具体的な取り組みの実施により、将来にわたる適正な運営が進められるよう指導・支援します。

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 (地区)	1	1
保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 (ha)	18	206
営農用水確保のための事業着手地区 (地区)	—	1
農業用水を活用した小水力発電施設の稼働数 (地区)	—	1
土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 (土地改良区)	—	6

【目指す方向】

『土』の保全整備

- ⇒ 担い手への農地集積を図り、生産性と収益性の高い農業経営を目指します。
- ⇒ 吾妻地域は、県内でも野生鳥獣被害が多いことから、侵入防止柵等の設置を支援するなど、農作物被害を軽減し安定的な農業経営を目指します。
- ⇒ 基幹的な農道の適時適切な保全対策を行うことにより、地域の農産物輸送の経路を維持保全します。

◆事業を契機とした担い手への農地集積

- 吾妻西部地域の農業農村整備事業実施中の地区において、担い手へのさらなる農地集積を推進します。

◆野生鳥獣被害の防止

- 侵入防止柵の設置を推進するなど被害防止対策を支援します。

◆生産・流通と農村地域の生活を支える農道機能の発揮

- 農道保全対策計画に基づき、計画的に保全対策を実施することによりライフサイクルコストの低減等を図ります。



保全対策が行われた農道
(中之条町：中之条地区)

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
農業農村整備事業実施区域内の農地集積率 (%)	47	50% 以上
野生鳥獣被害防止対策を支援した町村数 (町村)	3	3
基幹的な農道の保全対策の実施延長 (km)	4.1	12.4

※基準年の () 内は、過去4年間 (H25～27) の実績であり、今後4年間で同数の実施・支援を目指す。

【目指す方向】

『里』の保全整備

- ⇒ 地すべりの前兆現象が現れた地すべり防止区域において、地すべりによる被害を防ぐ対策を行うことにより、区域内の農地及び農業用施設等を保全します。
- ⇒ 農村の生活環境を支える農業集落排水施設について、適切に維持するための構想策定を支援するなど、農村地域の生活環境を保全します。

◆地すべり防止区域における農地・国土保全

- 地すべりの前兆現象を早期に把握するため、地域住民と連携した監視体制を継続して構築します。
- 地すべりの兆候が現れた区域の被害拡大を防止するため、地すべり対策工事を実施します。
- 地すべり防止施設の長寿命化を図るための機能保全計画（個別施設計画）を策定します。

◆農業集落排水施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減

- 施設の機能を最も効率的かつ経済的に維持するため、施設管理者が行う施設診断調査と最適整備構想の策定を支援します。

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
地すべり対策工事完了地区数 (地区)	—	1
地すべり防止施設の機能保全計画の策定地区数 (地区)	—	1
農業集落排水施設の最適整備構想策定町村数 (町村)	—	5

【目指す方向】

- ⇒ 農地・農業用施設について、適切に維持管理し、これらの資源を次世代へ引き継ぐとともに、地域で取り組む協働活動を支援することにより、農村地域の活力向上を図ります。
- ⇒ 農業農村及び地域資源を保全することへの県民の理解促進を図ります。

◆地域ぐるみの活動促進による地域コミュニティ機能の発揮

- 農業者を中心とした活動組織による農地、水路などの地域資源の基礎的保全活動を推進します。
- 地域で取り組む基礎的保全活動や地域資源の質的向上等を推進し、地域コミュニティ機能の発揮を図ります。
- 地域による水路や農道等の補修、更新など、地域資源の長寿命化への取り組みを推進します。
- 活動組織の事務負担軽減を図るため、組織の合併や広域化に向けた取り組みを推進します。

◆地域の実情に即した将来像の検討

- 地域の話し合いにより、地域ぐるみで取り組む農地利用集積と、担い手との連携強化への活動を推進します。
- 地域資源保全管理構想策定のための話し合いの場を活用して、地域における課題の把握や地域が描く将来像の検討をモデル的に取り組みます。

◆農業農村及び地域資源を保全することへの県民の理解促進

- 農業農村では、産業としての農業を営むだけでなく、食料の安定供給や多面的機能の維持・発揮など、広く県民がこれらの恩恵を享受していることから、農業農村についての県民の理解促進を図ります。



高等学校との連携による地域資源の保全
(中之条町：美野原地区)

数 値 目 標	基準年 (H26)	目標年 (H31)
多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 (集落)	35	58
農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 (ha)	1,321	2,519
地域構想づくり支援実施モデル地区数 (地区)	—	1
地域住民や学校教育との連携による理解促進への取り組み回数 (回)	—	8